

前回委員会以降の各種会議の結果報告について

1 . 科学委員会

平成 22 年度第 1 回科学委員会【2010.6.7】 [参考資料 1](#)参照

奥富前委員長が遺産推薦をもって委員を勇退することとなったため、新たな委員長として大河内委員が選出された。

前回委員会以降の各種会議の結果について、事務局より報告し、産業・暮らしとの共存等の課題とされた部分については、今後検討を進め、検討結果を管理計画の見直しの際に反映していくことが確認された。

国際自然保護連合（IUCN）による調査の行程等について、事務局より説明し、IUCN の専門家からの要望について重点的に確認がなされた。調査行程については、今後、更に詳細を詰めていくこととし、各委員と個別に調整を行うこととした。

平成 21 年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について、事務局から管理計画に基づいた形での報告があった。事業成果の積極的な PR の必要性についての指摘や、外来種対策の内容についての質疑応答、アクションプランの目標達成に向けた中長期的な計画の提示についての要望等があった。

植栽に関するワーキンググループの設置について、事務局からこれまでの経緯とWGの概要について説明を行った。遺伝子攪乱の定義づけや対象とする事業の範囲等、WGで期待される議論の内容について意見が出され、WGの設置について了承された。

2 . 地域連絡会議

第 1 3 回地域連絡会議【2010.6.11】 [参考資料 2](#)参照

前回会議以降の各種会議の結果や、平成 21 年度の事業成果及び今年度の事業実施計画について、事務局より報告を行った。参加者からの質疑や意見は特になし。

国際自然保護連合（IUCN）による調査の行程等について事務局より説明を行い、歓迎会や意見交換会等で積極的に協力してもらうよう地域連絡会議メンバーに依頼した。参加者から、視察を機に小笠原を対外的に広くアピールしたい、オガサワラオコウモリの保全計画作成が遅れているため視察への影響が懸念されるなどといった意見が出された。視察対応については前向きにアピールすることとし、また、地域の検討課題となっているコウモリをはじめとした自然環境保全と産業・暮らしとの関わりについては、今後地域連絡会議において議論していくこととした。

第 1 4 回地域連絡会議【2010.10.15】 [参考資料 3](#)参照

第 34 回世界遺産委員会及び世界遺産推薦のスケジュールについて、また国際自然保護連合による調査状況について、事務局より報告した。参加者からの質疑や意見は特になし。

国際自然保護連合による追加情報の要請及びその対応について事務局より説明を行い、参加者から新たな規制がかからないことや管理方法に変化がないことの確認などがなされた上で、対応の方向性について了承を得た。

ほか、自然環境保全と両立したシロアリ対策の必要性や地域連絡会議の位置づけの整理の重要性について指摘があり、事務局で検討を行うこととした。

3．種間相互作用ワーキンググループ

平成 22 年度第 1 回ワーキング 開催結果【2010.6.10】 参考資料 4参照

IUCN 調査時の専門家からのプレゼンテーションのうち、アクションプランの説明の中で、種間相互作用を重要な考え方の柱としていること、兄島をテストケースとして科学的アプローチを行っていること等について、本事業を活かした形で大河内委員から説明を行っていただくこととし、内容や留意点などについて議論が行われた。

平成 22 年度の事業計画（新たな試験地の設定等）について説明を行い、了承を得た。

平成 22 年度の試験地モニタリング結果について速報を示し、クマネズミの駆除によるノスリの食性の変化の可能性などについて意見交換がなされた。

今後の予定

平成 22 年度第 2 回のワーキングを 3 月 15 日（火）に開催予定。

ワーキンググループの設置当初は期間を 3 年間としており今年度で終了の予定であったが、平成 23 年度も継続することとした。

4．小笠原諸島における植栽に関するワーキンググループ

資料 1 - 2参照